

ホノルルマラソン完走者の満足要因の分析

-日本人完走者を対象として-

○ 松本 耕二 (鹿屋体育大学大学院) 野川 春夫 (鹿屋体育大学)

スポーツイベント ホノルルマラソン 完走者 満足要因

I. はじめに

近年、日本人の海外旅行者が増加し、また健康ブームの影響を受けて市民マラソン大会やトライアスロンといった海外へのスポーツイベントへの参加が増大している。その中で今日、数多くの外国人参加者を集め、国際的なスポーツイベントとして成功した市民マラソンの一つとして、ホノルルマラソンが挙げられよう。ホノルルマラソンではここ数年日本人参加者の増加が顕著であり、1987年の第15回大会以降では“外国人”である日本人が、全参加者の過半数を占めるようになった。

ホノルルマラソンについては、完走者のプロフィールに関する研究が山田らによってなされているが、参加者が大会のどのような側面に満足しているかは明らかにされていない。スポーツイベントの運営を活性化するためには、参加者の満足要因を明らかにすることが重要となってくる。

従って、本研究では、ホノルルマラソンの日本人完走者に対して、大会に対する満足要因を明かにし、今後の大会運営に対する基礎資料を得ることが目的であった。

II. 研究方法

調査対象 : 1988年「第16回ホノルルマラソン」および1989年「第17回ホノルルマラソン」における日本人完走者

調査時期 : 第1回調査 1988年12月11日 第2回調査 1989年12月10・11日

調査方法 : 質問紙法

第1回調査: 現地の調査員に依頼して、ゴール付近のカピオラニ公園内で、日本人フルマラソン完走者を有意に抽出し調査用紙を配布してその場で回答してもらい回収した。

第2回調査: 第1回目と同様にの方法で、大会当日と翌日の記録発表式の時に調査用紙を配布し、その場で回答してもらい回収した。

サンプル数: 第1回調査 195名 第2回調査 101名

III. 結果

1. サンプルの概要

今回のサンプルは、男性(1988年 77.9%、1989年 73.1%)、女性(1988年 22.1%、1989年 26.9%)であり、男性と女性の比率は1988年、1989年ともおよそ3対1の割合で男性の方が多かった。年齢は、1988年は、20代が最も多く(38.5%)ついで30代、40代、50歳以上そして10代の順であった。1989年では、20代(40.6%)が1988年と同様に最も多く、ついで10代、30代、40代、50歳以上の順であった。また職業別にみると、会社員(1988年 49.0%、1989年 37.0%)が最も多く、ついで学生(1988年 19.8%、1989年 34.0%)で、1988年、1989年とも全体の3分の2以上を占めていた。

ホノルルマラソン参加回数は、初参加者(1988年 86.6%、1989年 85.9%)が8割以上を占め、2回目(1988年 7.7%、1989年 9.1%)、3回以上(1988年 5.5%、1989年 5.0%)とする者は非常に少なかった。また、過半数の参加者(1988年 56.2%、1989年 61.6%)がフルマラソンの初体験者であった。

2. 完走者の大会に対する満足度

ホノルルマラソンの大会に対する満足度は、1988年、1989年とも全体的に非常に高いことがわかった。「運営全体」においては、「非常に満足」の回答が71.2%（1988）、72.3%（1989）、「満足」は、22.5%（1988）、25.7%（1989）と全体の9割以上が大会運営に満足であった。また「レース日程」「参加費」「マラソンコース」「ボランティアの対応」「参加賞」の5要因においても、「非常に満足」「満足」の回答が1988年、1989年とも8割を越え、中でも「ボランティアの対応」については「非常に満足」の回答が、88.0%（1988）、86.1%（1989）と最も高い値を示した。

一方、全体的に満足度が高い中で、「前夜祭（1988）」と「簡易トイレの数と場所（1988）（1989）」の満足度は約6割であり、他の要因に比べこの2項目においては余り高くなかった。また本調査では、完走者のホノルルマラソン参加回数およびフルマラソン経験と大会に対する満足度との間には、「前夜祭（1988）」（ $p < .05$ ）の他に有意な差は認められなかった。

IV. 要約

- (1) 完走者のホノルルマラソン全体に対する満足度は、1988年、1989年ともに非常に高い傾向を示した。
- (2) 「レース日程」「参加費」「マラソンコース」「ボランティアの対応」「参加賞」「運営全体」の6つの要因は、1988年、1989年とも満足度が高く、特に「ボランティアの対応」には、両年とも「非常に満足」の割合が高い傾向がみられた。
- (3) 「前夜祭」「簡易トイレの数と場所」は他の要因に比べ満足度が低く、特に「簡易トイレの数と場所」は1988年、1989年とも満足度の低い傾向がみられた。
- (4) 大会に対する満足度とホノルルマラソン参加回数およびフルマラソン経験との関連はほとんど認められなかった。

表1. サンプルの属性

		1988年	1989年
性別	男性	77.9 % (n=152)	73.1 % (n=68)
	女性	22.1 % (n=43)	26.9 % (n=25)
年齢	10代	4.6 % (n=9)	34.7 % (n=35)
	20代	38.5 % (n=75)	40.6 % (n=41)
	30代	22.1 % (n=43)	10.9 % (n=11)
	40代	19.5 % (n=38)	6.9 % (n=7)
	50歳以上	15.4 % (n=30)	6.9 % (n=7)
職業	会社員	49.0 % (n=94)	37.0 % (n=37)
	学生	19.8 % (n=38)	34.0 % (n=34)
	公務員	11.5 % (n=22)	7.0 % (n=7)
	自営業	6.8 % (n=13)	3.0 % (n=3)
	その他	12.9 % (n=25)	19.0 % (n=19)
ホノルルマラソン参加回数			
	初参加	86.6 % (n=168)	85.9 % (n=85)
	2回目	7.7 % (n=15)	9.1 % (n=9)
	3回以上	5.5 % (n=11)	5.0 % (n=5)
フルマラソン経験			
	1回目	56.2 % (n=109)	61.6 % (n=61)
	2回目	12.9 % (n=25)	11.1 % (n=11)
	3回目	10.3 % (n=20)	7.1 % (n=7)
	4回以上	20.3 % (n=40)	20.0 % (n=20)

表2. サンプルの大会に対する満足度

	非常に満足		非常に不満足	
	満足	満足	不満足	不満足
レース日程	60.2 %	26.2 %	10.5 %	3.1 %
	78.8 %	15.2 %	5.1 %	1.0 %
参加費	54.2 %	34.2 %	10.0 %	1.6 %
	53.5 %	33.7 %	12.9 %	0.0 %
前夜祭	24.1 %	31.6 %	32.8 %	11.5 %
	35.1 %	45.7 %	18.1 %	1.1 %
マラソンコース	69.6 %	24.6 %	2.6 %	3.1 %
	69.3 %	21.8 %	8.9 %	0.0 %
簡易トイレの数と場所	27.2 %	33.0 %	31.9 %	7.9 %
	30.7 %	24.8 %	28.7 %	15.8 %
ボランティアの対応	88.0 %	7.3 %	2.1 %	2.6 %
	86.1 %	10.9 %	3.0 %	0.0 %
参加賞	45.5 %	43.3 %	9.6 %	1.6 %
	69.3 %	26.7 %	3.0 %	1.0 %
運営全体	71.2 %	22.5 %	4.2 %	2.1 %
	72.3 %	25.7 %	2.0 %	0.0 %

注) 上段 1988年 下段 1989年